



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン：サウジアラビアとの関係

(1月10日～18日付現地報道取り纏め)

1. ウムラ（小巡礼）の一時停止
 - (1) ラヤーリー巡礼庁長官の発言（18日付「イラン・デイリー」紙）
 - (イ) 巡礼及びウムラにおけるイラン人巡礼者に対するサウジ当局の無礼な措置に鑑み、我々はサウジ当局と本件の解決に向けた話し合いを行うことを決定した。
 - (ロ) 我々は、イラン人巡礼者から、サウジ当局のひどい措置に関する報告を受けている。彼らの態度及び措置は、我々国民を怒らせるものである。
 - (ハ) この話し合いが結果に至るまで、ウムラ再開時期を国民に伝えることはできない。
 - (2) ナスィーリー巡礼庁広報部長の発言（17～18日付「イラン・デイリー」紙）
 - (イ) イランは、サウジ宗教警察による無礼な行動が終了するまで、巡礼を見合わせることにした。
 - (ロ) 巡礼見合わせの理由は、サウジの勸善懲悪委員会によるイラン人巡礼者に対する対応である。なお、ウムラは一時停止されたもので、中止ではない。
 - (ハ) 我々の措置は、政治的なものではなく、宗教的なものである。
3. ペルシャ湾呼称をめぐるイランと ISSF (Islamic Solidarity Sports Federation) の対立（18日付「エッテマード」紙）
 - (1) ISSF による第2回スポーツ大会が昨年10月にイランの3都市（テヘラン、マシュハド、イスファハン）で開催予定であったが、新型インフルエンザの流行により延期され、本年4月にイスラム諸国24カ国を招いて開催する方向で調整していた。しかし、ペルシャ湾の呼称問題をめぐる対立が解消されなかった為、同大会のイランでの開催がキャンセルされた。
 - (2) この対立は、イランが「ペルシャ湾」の名称をメダルに刻印すると表明し、これにアラブ諸国が反発したことに端を発する。16日、サウジアラビアにて ISSF 幹部特別会合が開催され、イラン側からインフラ担当大統領顧問（前体育庁長官）、イラン・オリンピック委員長などが出席して話し合いが進められたが、イランはメダルからの「ペルシャ湾」の削除を受け入れなかったため、第2回大会のイランでの開催がキャンセルとなった。
 - (3) ペルシャ湾呼称問題は、サウジアラビアで開催された第1回大会でも問題となったが、当初、メダルには「アラビア湾」と彫られていたが、イランの反発により、「湾」のみが記載されることで妥協に至った。
 - (4) ISSF 幹部は、イランが第1回大会でのサウジアラビアのように妥協を見せるべきであったと述べた。他方、イラン側は、ペルシャ湾はイラン国土の一部であり、国際機関や国連などもこれを認めているが、アラビア湾という名称は登録されておらず、作られたものであると主張し、「ペルシャ湾」の記載を譲らなかった。